

シナガワ

(東京)

基準湿式ガスメーターとJCSS校正業務で
世界市場に挑戦する国際派企業

都

市ガス・プロパンガスの安全で正確な供給に欠かせない家庭用ガスメーター。日本では8社が製造を行っているが、各都道府県が設置する「検定所」の厳しい検定に合格したもののだけが流通を許される。

1906年に創業した品川製作所の流れを汲む株式会社シナガワ(関谷実利社長)。メーカー8社が、製造したガスメーターの精度を確認するために検定を行う際、基準器として用いる「基準湿式ガスメーター」のトップメーカーだ。



関谷 実利 社長

独立行政法人産業技術総合研究所(産総研)で基準器としての検定も受けている同社の基準湿式ガスメーター。全測定範囲で安定した精度と低い圧力損失、堅

牢な構造を有し、優れた性能と扱いやすさが高く評価されている。工業用流量計の校正用標準器としてエネルギーガス分野以外にも空気中の煤塵量や有毒ガス測定、燃料電池、自動車エンジン分野でも役立てられ、中国や韓国、台湾の提携企業の協力も得て、世界45カ

国へ輸出も行っている。これに加え、大手企業や大学、研究所などの取引先から信頼を獲得しているのがJCSS校正事業だ。これは、JCSS(計量法校正事業者登録制度)の認定事業者として、国際規格IS

O/IEC17025に基づき、各種計測機器が要求事項に適合しているか校正を行い、JCSSロゴマーク付き校正証明書を発行する一連の業務のこと。

同社は気体流量の分野で国際MRA(計量標準の国際相互承認協定)に対応した唯一のJCSS認定事業者。誤差を防ぐため、作業環境を温度23℃・湿度50%に維持した校正室で、国内外から集まる様々な計測機器の校正を行っている。

新製品開発にも取り組み世界市場でのシェア拡大へ

同社はJICA国際協力機構)研修生を受け入れて

いる。きっかけは関谷社長が技術指導のためにマレーシアを訪れ、現地の技術者養成に携わったこと。その



基準湿式ガスメーター



自動整準台「ALW-100」

後産総研の依頼で、カリキュラムに同社での研修が組み込まれることになった。「電気、ガスなどのインフラが十分に整備されていない途上国の方々が、当社で得た知識や経験を自国に持ち帰って少しでも役立ててもらえれば」(関谷社長)

外国人社員の採用にも注力。海外のエンドユーザーの声を、直接的に業務に反映させることが狙いだ。

自社オリジナル製品の開発にも取り組み、最近では水平制御・監視をワンタッチで行う自動整準台「ALW-100」を開発。あらゆる計測機器の水平設置に掛かる手間を省き、作業効率を高め、計測データの信頼性向上に役立つ。

社員の評価基準を明確に設定し、女性が活躍できる公明正大な職場づくりを推進している関谷社長。今後の展望を次のように話す。

「当面の目標は1カ月に1台、世界100カ国に当社製品を販売すること。校正業務については、設備を充実させて校正室を完全自動化し、業務の質をより高めていきたいですね」(森)

「会社データ」

本社 東京都稲城市押立863
☎ 042-378-2210
設立 1986年6月
資本金 1000万円
従業員数 20名
事業内容 1 ガス計量器製造・販売、JCSS校正業務
<http://www.shinagawa-net.co.jp>